

# フードバレー視察報告

2013.05.30

十勝高等教育まちづくり会議

理事 後藤健市

(企画総務部会)

## ＜視察の目的＞

十勝のフードバレーは  
食の産業クラスターの取り組みであり、  
農業者、教育機関、民間企業、行政などの  
有機的な連携が求められている。

私たちが検討している  
十勝の新たな高等教育機関も  
“豊かなまちづくり”を目的としており、  
フードバレーと密接な関係があると考え、  
先進地オランダの視察に参加した。

※本報告書は後藤の私見です。

## < 農業輸出大国オランダの背景 >

|       |   |
|-------|---|
| 面積    | 41526km <sup>2</sup> (北海道: 8345km <sup>2</sup> の半分)<br>※国別面積ランキング131位、日本62位 |
| 人口    | 1600万人(十勝の46倍、北海道の3倍)   |
| 農業人口  | 全労働人口の2%以下  |
| 食料自給率 | 60%台(カロリーベース)   |
| 食料品輸出 | 世界2位(超大国の米国に次ぐ)   |

※この輸出大国であることが、オランダをフランスやドイツと同じ大国のイメージに結びつけている。

→巨人の国でもある(平均身長 男183.8cm, 女170.7cm)

## < 農業輸出大国オランダの背景 >

### ・歴史背景

世界の海を駆け巡っていた17世紀に構築した世界中とのさまざまな場所と人とのネットワークを有している。

### ・経済環境

地続きの欧州各国との戦いに勝ち抜かなければならないという非常に厳しい経済環境にあった。

### ・産業（農業）

農業及び食品を、国家戦略に位置づけて、その改革と発展・強化に取り組んできた。

＜財団、大学や研究機関、企業の連携＞

そして、  
その国家戦略を遂行していく中で  
重要な役割を担ってきたのが、

オランダの農業専門の高等教育機関の  
ワーヘニンゲン大学であり、

その機能をさらに強化するために、  
ワーヘニンゲン大学リサーチセンターが設立され、

さらに、  
その補完機能としてフードバレー財団が設立された。

# ＜フードバレーにおける大学等の役割＞

## ●ワーヘニンゲン大学

研究と連動した人材育成(教育)のための役割を担う

## ●ワーヘニンゲン大学リサーチセンター(WUR)

フードバレー推進のエンジンとして、さまざまな研究の軸としての役割を担う

## ●フードバレー財団

国内外の個人や団体などからの相談窓口 & コーディネーターであり、プラットフォームの役割を担う

## ●各種研究機関等

WUR、企業との共同研究の実践機関としての役割を担う

## ●関連団体

各種のPR活動や、上記組織等の外部的支援や補完機能の役割を担う

## <ワーヘニンゲン大学の歴史>

- ・ 1876年：地域の農業学校を政府関連の教育機関として発足。  
<42年後>
- ・ 1918年：農業学校を国立化  
<68年後> ※1920年に十勝農業学校が組合立で創立、1957年に道立高校。  
※1931年に帯広高等獣医学校創立、1949年に国立帯広畜産大学。
- ・ 1986年：ワーヘニンゲン農業大学誕生  
(Agricultural College から Agricultural Universityへ)  
<9年後>
- ・ 1997年：ワーヘニンゲン大学リサーチセンター(WUR)を設立。  
※教育研究機関であるワーヘニンゲン大学と、農業・食品関連のいくつかの研究専門機関等を結合して設立。  
<3年後>
- ・ 2000年：大学名称から農業を外しワーゲニンゲン大学に変更  
(Wageningen University)  
※この時点で、教育内容を農業だけではなく、森林や環境、食品、バイオ、気候、観光、水産から水管理に関する分野などに広げたという。  
<4年後>
- ・ 2004年にフードバレー財団発足。

# ＜オランダの高等教育の状況＞

オランダの大学は以下の通り。

- ①アムステルダム大学、②アムステルダム自由大学、③デルフト工科大学、
- ④アイントホーフェン工科大学、⑤ローニンゲン国立大学、⑥ライデン大学、
- ⑦マーストリヒト大学、⑧ラドバウト・ナイメーヘン大学、
- ⑨エラスムス・ロッテルダム大学、⑩ティルブルフ大学、⑪トゥウェンテ大学、
- ⑫ユトレヒト大学、⑬ワーゲニンゲン大学、
- ⑭ナイエンローデ経営大学校(市立)がある。

・大学進学率は10%台(超エリート教育機関)

・大学以外の高等教育機関として高等専門学校が50弱ある。

→ 多くの人はこちらで知識と技術を学び現場で活躍している。

これは、実社会に即した高等教育のあり方であり、十勝もここに学ぶべき点が多々あると思われる。

## <フードバレー財団の活動>

食品業界をリードする数社からの要望でスタートしたフードバレー財団は、現在100社以上の企業、大学や研究機関、さらに政府も加盟し運営している。

主たる活動は以下の5つ。

- ①企業と研究機関、また企業同士のマッチング
- ②新たなアイデアを活かした事業の支援。(独立や起業支援も)
- ③オランダ国内やEU内の農業や食品に関する情報、知識、人材の獲得と発信
- ④農業や食品に関する国際的なネットワークの拡充による、新たな(最先端の)情報や知識の会員への提供
- ⑤国際会議や国際展示会等でオランダ・フードバレー事業の成果報告やPRを行い、品質改良、栽培技術、食品安全性等において、世界トップレベルの取り組みがなされていることを国際的に示す。

## <オランダフードバレーに学ぶべきこと...>

### ●小さい&少ないことの利点を活かす！

小国だからこそその意思決定と情報伝達、さらには行動の速さを武器に、組織の改編や統合、さらに、オランダ経済の強化のために必要となる機能の追加などを迅速に実施してきている。

### ●国家戦略と連携を図る！

農業・食品分野を国家の経営戦略の軸に据え、短期だけではなく、中長期を見据えた取り組みを中央と地方の行政連携、行政と民間、さらには大学の産学官連携のそれぞれの責任を明確にしながら実施してきている。

### ●時代の変化に対応する！

時代のニーズ、社会や企業のウォンツの把握をグローバルかつ持続的に展開するための体制づくり(変化に強い柔軟さ)をしてきている。

## <十勝の高等教育機関とフードバレー>

- ・十勝の高等教育機関の目的は...  
「豊かな十勝づくり」のための人材とノウハウの集積と育成にあり、  
フードバレーも、食の産業クラスターの構築と、  
それによる「豊かな十勝づくり」である。
- ・十勝には、帯広畜産大学と大谷短期大学の2つの大学があり、  
国際的な支援を目的とする国の教育機関JICAもあり、  
それ以外の教育機関として、歴史のある農業高校や、  
他の専門性を持つ専門学校等がある。
- ・さらに、高いエネルギーと志と圧倒的な行動力を持つ農家や、  
その農業を支えてきた農業機械のメーカーもある。
- ・これらの地域内の人材、組織を連携し、  
さらに国内外の専門家や研究機関、民間企業を結ぶ役割を、  
既存のコーディネート組織等との違いを明確にし、  
グローバルな人材育成と企業連携の展開を加速してくための  
新たな高等教育機関をどう構築していくのかが、今後の検討課題となる。

# ＜まちづくりの視点からのおまけ報告＞

## オランダにおける色（デザイン）が担う役割



●歴史と伝統的の街のカラフルなオランダ！

商品

車（商業車）や広告

未来レストラン（学食）& トマトワールド

# オランダにおける色(デザイン)が担う役割

## ●カラフルなオランダの商品！



# オランダにおける色(デザイン)が担う役割

- カラフルなオランダの車や広告など！



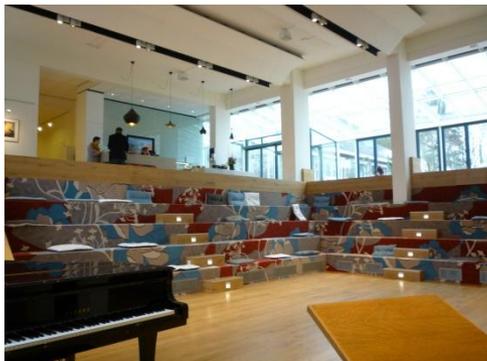
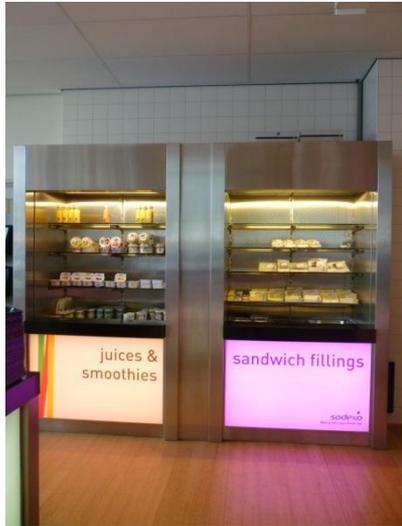
# オランダにおける色(デザイン)が担う役割

- カラフルなオランダの学食(未来レストラン)！



# オランダにおける色(デザイン)が担う役割

## ●カラフルなオランダの学食(未来レストラン)！



# オランダにおける色(デザイン)が担う役割

- カラフルなオランダのトマトワールド！



# オランダにおける色(デザイン)が担う役割

## ●カラフルなオランダのトマトワールド！

